

地域貢献につながる 助産師の活躍

お産停止のピンチを
チャンスに変える!



広域紋別病院

主任助産師 久保田美智子

1998年天使女子短期大学（現・天使大学）衛生看護学科卒業、翌年同専攻科衛生看護学専攻卒業。同年、社会福祉法人聖母会聖母病院入職、周産期病棟に助産師として勤務。2004年より道立紋別病院（現・広域紋別病院）にて看護師・助産師として勤務。2010年より現職。



院内から院外へ、広がる助産師活動の輪 ～院内デイケアの実際と、地域連携の今後

今回、前回（本誌Vol.10, No.5）に引き続き、産後サポートの一つである産後デイケアおよび産後2週間健診の実際と、地域連携について紹介する。

●当院の概要

広域紋別病院は、西紋別地域の5市町村でつくれた企業団組合が運営する、病床数150床の公立の総合病院である。2010年に北海道から移管され、2015年4月に現在の新病院に新築移転した。入院基本料10対1、外来診療科17科で診療し、二次救急や小児・周産期・人工透析・精神科医療も担う西紋地域のセンター病院である。新築を機に増床し、電子カルテが導入され、ハード・ソフトの両面からも大きく変化した。

●当院の産婦人科の体制の経緯

2017年度、当院の産婦人科は常勤医師1人、非常勤医師2人、小児科は常勤医師3人であった。

2014～2017年の紋別市における年間出産件数は平均147件であり¹⁾、そのうち当院の分娩件数は平均29件で、帝王切開術は0件であった。

このような状況の中、2018年3月に産婦

人科の常勤医師が退職したのを機に、現在は分娩を休止し、非常勤医師2人で週に3日外来診療を行い、希望する妊婦については、妊娠30週まで妊婦健診を行っている。

●新規の産後サポート内容の紹介

常勤医師が退職し、分娩を休止せざるを得ない状況になり、改めて助産師全員で従来行ってきた活動を振り返り、地域のセンター病院で働く助産師として、今できる産後ケアの整備はないか検討した。市の保健師から、産後ケア支援事業の委託実施施設としての依頼があったことも重なり、限られた助産師数では夜間のケア提供が不十分となるため宿泊型は難しいが、デイケア型であれば可能と考え、契約の提案をした。

院内産後デイケアについて、できる方法を考えていくうちに、従来の母乳相談のシステムも見直すことができ、妊婦健診から産後2週間健診や産後サポート全体へ、さらには地域との連携に産前・産後ケアが一連の流れとしてつながっていくことを実感した。

紋別市と委託契約を締結し実施している産後デイケア事業、産婦健康診査事業の2事業について表に示す。